

あらゆる機器に精通する、 医療のエンジニア

臨床工学技士

北岡 豊永(きたおか あつのり)
技士



臨床工学技士の主な仕事は、生命維持管理装置の操作及び保守点検です。「生命維持管理装置」という言葉を耳にしたことがある人は少ないかもしれません。人工呼吸器や人工心肺装置など、人間が生きていくために必要とする呼吸や血液の循環などの働きを代行したり、補助したりする装置をいいます。

仕事のひとつとして、病院内での補助循環装置の操作やメンテナンスがあります。補助循環装置とは、文字通り患者さんの心臓と肺の機能を肩代わりしている装置です。万が一、トラブルが発生し、補助循環装置がストップしてしまうと、患者さんの命にかかわる重大な事故に繋がります。患者さんの生命に直結する高度管理医療機器であるため、徹底したメンテナンスと、高い専門知識に基づいた操作が求められます。「補助循環装置の操作は、やはりプレッシャーを感じます。しかし、補助循環装置が必要なほど重篤な患者さんが回復し、装置を外すことが可能となったときや



元気な姿を見たときにやりがいを感じます。」(北岡技士)

勤務経験11年のベテランである北岡技士。あらゆる現場に精通するため、本院に赴任するまでは、香川県や高知県の病院で、多くの症例を経験し、体外循環技術認定士や透析技術認定士、医療機器情報コミュニケーター(MDIC)などの資格を取得しています。

「自分の理想としては、あらゆる現場のバックアップに回ることが出来るジェネラリストタイプのMEになることです。そのためには、さらに広い知識と技術を身につけたいですね。また、南海トラフなどの災害時に、臨床工学技士としてどういった行動をとることができるのか。特に電気がストップするとあらゆる装置が停止してしまいます。電気を含めたライフラインの確保を臨床工学技士の立場から検討しています。絶対止められない装置を扱っている以上、その根本となる電気や水道を確保するための取り組みを進めたいですね。」(北岡技士)